

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ 67—向こう岸に渡ろう！』

武田真治牧師

創世記 1:1~8 ルカ福音書 8:22~28

ルカ福音書8章22節以下はイエス様がガリラヤ湖の嵐を静められたという“奇跡”の出来事です。

この奇跡は「突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくなった」ので、弟子たちが『先生、先生、おぼれそうです』とイエス様に助けを求めたことに答えて、イエスが起こされた奇跡でした。ただ、今の私たちがここを読むと「おぼれる」ぐらいで、そんな大げさな、そこまでのことか、何から何までイエス様をお願いしているなあと思いがちですが、実はこの『おぼれそうです』という言葉は、原文のニアンスでは『滅ぼされそうです(=動詞アポリユミーの現在形の受け身)』です。実際、新しい『聖書協会共同訳』では『先生、このままでは死んでしまいます』と改訳しています。つまり、もっと切実で必死な“叫び”であるのです。だからイエス様も答えて下さったのです。

ここには、当時の人々、特に旧約聖書に触れていたユダヤ人たちにとって、海や水への恐怖が強かったことが原因していると言い得ます。神様が天地創造をされた時も、その最初は「闇が深淵(テホーム=底なしの淵)の面にあり、神の霊が水の面を動いていた」とありますように、あたかも原始の海のようなものがあり、それを神様が「大空の下(=今の海)と大空の上(=雲や雨)に水を分けられた」ことにより、その間に空間が拡がり、生命が息づく場所を造られ、その空間を支え、恵みを与えて下さっているから生き物たちの世界が存在しているのです。逆に言えば、その上の水と下の水がくっついてしまったら、空間は閉じて生物はすべて“滅ぶ”ことになり、それがまさに《ノアの洪水》でした。故に、嵐や洪水等が起こることは、彼らにとっては“神様の怒り・裁き”をどうしても連想させたのでした。しかも、ここで彼らが向かおうとしていた「向こう岸(ガリラヤ湖の東海岸)」は「ゲラサ人の地」つまり《異邦人の居住地》でした。そこ

にイエス様が行き、み言葉を述べ伝えようとしておられるのですから、ユダヤ人の弟子たちにとって、尚更この突風を“神様が妨げておられる、これ以上行けば、滅ぼされる”と考えたのも無理はないことでした(旧約のヨナのように)。

しかし、その考え方や人種の壁を打ち破られようとして来られたのがイエス様ではなかったでしょうか？ また、イエス様が『湖の向こう岸に渡ろう』と言われ、尚も、この時「眠って」おられるのなら、これこそが“良き道”であり、進むべき方向であり、大丈夫だということだったのです。にもかかわらず、弟子たちは『滅ぼされそうです』と慌てふためいたのでした。その彼らの状態を見て『あなたがたの信仰はどこにあるのか』とイエス様は言われたのでした！ これは、信仰の《場所》を問われている言葉でもあり、私たちの信仰も『どこに立っているのか？』と問われているのでしょうか！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 2月11日(水) 20:00
II. 2月12日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 2月15日講壇交換・受難節を覚えて

担当者: (水) NY (木) KH

祈りに覚える人 OYさん KHさん

【教勢報告】

主日礼拝 男13 女47 計60

祈祷会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女7 計8

日曜学校 幼稚科5 小中科6 計11

【次週礼拝】 2月15日(日)

聖書: 使徒言行録 3章 1-10節

説教: 「交換講壇—神殿で何が起こるのか」

小池正造 牧師(東新潟教会・教区書記)

讃美歌: 17(1)、32、412、533、484、

【次週当番表】 92(1)

司式: KY 長老 奏楽: KH 礼拝: IK 長老

献金: IK IT 受付: IY YS

会堂準備: KK KT TR NE

HH HH

看板: SC 週報: YS お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・お茶の会・オリブの葉編集委員会

・日曜学校教師会・幼稚園理事会

2026年 2月 8日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549